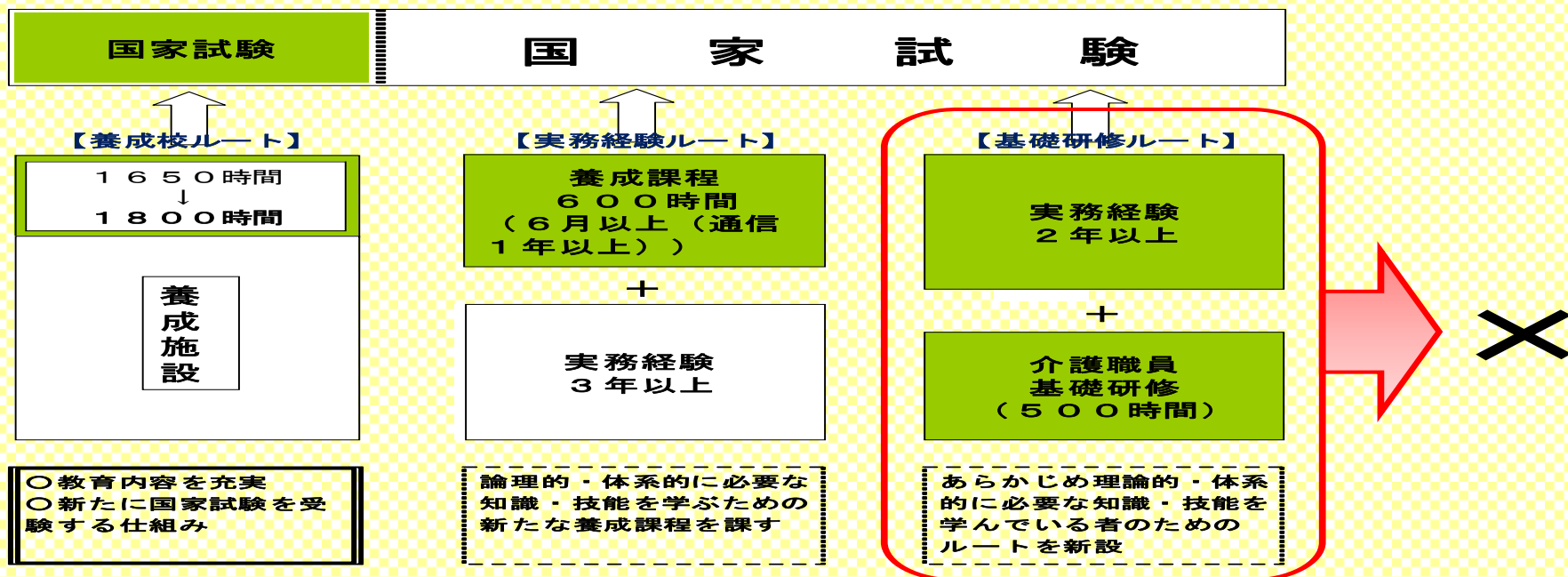


実務経験ルートにおける養成課程と介護職員基礎研修の経緯

- 社会保障審議会福祉部会報告書(平成18年12月)において、介護職員基礎研修修了者について、「基礎研修修了後、実務経験2年を経た者」に対し、受験資格を付与すべきと提言。



- その後、報告書を元に、「社会福祉士及び介護福祉士法一部改正法案」が立案(基礎研修ルートについては省令事項であったため、法案そのものには盛り込まれず)される。
- 一部改正法案の国会審議(平成19年)の際に、「実務経験ルート(実務経験3年+600時間課程)【法律上措置済みのルート】と基礎研修ルート(実務経験2年+500時間)【省令で新たに措置するルート】の均衡を図るべき」との指摘があり、引き続き検討を行うこととされた。

衆参厚生労働委員会附帯決議

七、厚生労働省令において介護福祉士の資格取得ルートを規定するに当たっては、法律上の資格取得ルートとの間で、教育内容及び実務経験の水準の均衡に配慮すること。また、今後、介護サービスの担い手の養成に係る新たな仕組みを設けるに当たっては、現在の資格制度との関係について十分検討を行い、現場が混乱に陥ることのないようにすること。